

普及活動の成果

様式6(左)

課題名 : 水稻高温耐性品種の生産安定及び作付面積拡大
活動対象 : ながさき西海農協水稻生産者

振興局名 : 県北振興局
実施期間 : 平成29年4月
～平成30年3月

【対象の概要】

- ・ながさき西海農協水稻生産者(佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町、佐々町)
(3,614ha、6,667戸)

【課題設定の背景】

- 1 「にこまる」は、作付面積が徐々に拡大したが、平成26～27年度の冷夏による1等米率の低迷、WCS用稲の拡大で、平成27～28年度の「ヒノヒカリ」からの転換が伸びなかった。
- 2 「つや姫」は、1等米率が高い産地と低い産地があったが、適正な水管理等により、平成28年度の1等米率が93.3%に向上した。
- 3 「なつほのか」は、極良食味の高温耐性品種であり、「あさひの夢」の代替、標高が高く「ヒノヒカリ」栽培が難しい地区や野菜後作地区への普及が見込まれる。

【活動目標】

- 1 「にこまる」は、県北地域水稻高温耐性品種推進マップを活用し、推進対象に野菜等他部会を加え、「ヒノヒカリ」より経済的に優位なことを説明して作付を推進する。
- 2 「つや姫」は、各地区つや姫部会を対象に、適正な栽植密度、水管理、施肥、収穫期等栽培技術を指導し、生産安定を図る。
- 3 「なつほのか」は、展示圃の設置、立毛検討会、米試食会等の開催、研究会の設立等推進地区における平成30年度からの産地化に向けた取組を支援する。
展示圃調査結果に基づき、県北地域における栽培技術(特別栽培、減農薬栽培)を確立する。

【関係機関との連携(活動体制・役割分担)】

- 1 農協と連携し、「にこまる」の栽培技術指導、作付推進を行った。
- 2 農協と連携し、「つや姫」の栽培技術指導を行った。
- 3 農協、市町、全農ながさき農産部、農産園芸課、農林技術開発センターと連携し、「なつほのか」の現地検討、展示圃成績検討、栽培基準検討、推進方策検討を行った。

【活動経過】

- 1 他専門G(野菜、果樹、花)と「にこまる」重点対象について検討し、水稻生産者組織、他部会、認定農業者協議会支部等への作付を推進した。
平成30年度以降の「にこまる」推進方策、推進地区、改善技術等について検討した。
食味ランキング特A取得に向け、特A圃場を設置し、穂肥、収穫等栽培技術を指導した。
- 2 各地区つや姫部会に、穂肥検討会、収穫適期検討会、水稻反省会で、栽培技術を指導した。
食味ランキング特A取得に向け、特A圃場を設置し、現地検討、品質調査を行った。



<「つや姫」現地検討会>

3 各推進地区において、「なつほのか」産地化に向け、展示圃設置・調査・検討、栽培講習会、現地検討会による栽培技術指導、米試食を行った。

作物部会において、「ヒノヒカリ」から「なつほのか」への品種転換、推進方策を検討した。米卸業者を含む関係機関で、現地検討、意見交換を行った。

平戸地区で、野菜後作水田における「なつほのか」肥料試験を行った。

農協EKC連携会議で、平成30年度「なつほのか」推進地区選定協議を行い、営農座談会で、「なつほのか」推進地区の展示圃設置、研究会活動等平成30年度取組内容を検討した。

松浦地区、平戸地区、世知原地区の「なつほのか」栽培講習会で、栽培技術を指導した。

【普及活動の成果】

1 水稻高温耐性品種の作付面積は425haとなり、目標を達成できなかったが、水稻面積が昨年度から133ha減少している中、高温耐性品種面積は29ha増加している。

「にこまる」の1等米率は65.6%と良好で、「ヒノヒカリ」の48.4%を上回った。

他部会等の生産者294名に対し、「にこまる」作付推進ができた。

2 「つや姫」の1等米率は63.4%で、昨年度の93.3%から低下したが、「コシヒカリ」の10.6%、「ヒノヒカリ」の48.4%を上回った。

3 県北地域における「なつほのか」の平成30年度作付見込面積が60haになった。

展示圃調査結果、研究成果情報に基づき、平成30年度「なつほのか」栽培基準（普通栽培、特別栽培、農薬3割減栽培）を作成した。

平成30年度以降の「なつほのか」推進方策（推進スケジュール、推進地区、推進方法等）について、関係機関で確認できた。

平成30年度「なつほのか」推進地区、展示圃設置計画について、地区と調整できた。

肥料試験の結果、野菜後作水田「なつほのか」の適正施肥に関する知見が得られた。

【対象の声】

・振興局の活動に対しては理解しているし、講習会も事前の日程調整があるため参加しやすい。

【今後の課題】

1 「にこまる」推進対象として土地改良区等を加え、作付を推進する必要がある。

2 北松地区はカメムシ被害、平戸地区度島は充実不足で2等であった。管理徹底が必要である。

3 「コシヒカリ」の1等米率が低迷しているため、早期栽培「なつほのか」展示圃を設置し、調査結果に基づき、県北地域における栽培技術（早期栽培）を確立する必要がある。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

1 推進マップを活用し、標高100m以下の「にこまる」推進地区への作付を推進する。

2 「つや姫」の栽培技術を指導し、生産安定を図る。

3 推進地区において、栽培技術指導を行い、「なつほのか」の産地化、作付面積拡大を図る。

【発表・参考資料】 なし